

空 手 道 部

河野 陽一

創 立

千葉大学医学部空手道部は、昭和33年福士（昭和37卒）によって空手道同好会として発足し、その後小林ら（昭和39卒）の尽力により昭和37年に正式に空手道部として設立された。初代部長には、当時解剖学教室の野中教授が務められた。しかしその後部員数の減少により、昭和44年の東日本医科学生体育大会への参加を最後に部員がゼロとなり、活動休止を余儀なくされた。空手道部に限らず部の盛衰は文字通り新入部員数によるが、本稿をまとめている河野（昭和48卒）も当時の部員の一人であり、年ごとに部員数が減り休部に追い込まれたことは誠に残念だった。これらの経緯は、木内政寛前法医学教授が記述された千葉大学医学部百周年記念誌（昭和53年発行）の中の「空手道部」に詳しいので参照されたい。

新たな空手道部の発足

その後、昭和50年4月になり医学部3年であった渡辺（昭和54卒）の並々ならぬ熱意により空手道部は再建され、昭和51年に部として正式に認められ初代主将は渡辺自身が務めた。なお、新しい空手道部の部長には、渡辺の学年主任であった第三解剖学教室の大谷克己教授の紹介により、第二生理学教室の本田良行教授が引き受けてくださり、顧問には法医

学教室の木内政寛助教授が就任した。

当時は古い木造の武道場があり、その中に畳敷きの柔道場と板敷きの剣道場があった。空手道部は、剣道部の練習のない日を選んで週3回の練習を始め、渡辺たちの真摯な練習態度に惹かれて参加者は徐々に増えていった。空手道部の指導には伝統流派の教えが必要だが、前述の休部前に指導をいただいていた玄制流との関係は途絶えていて指導者を探すのが当時の大きな課題であった。この問題は、空手道部員だった長島（昭和55卒）が東金市で和道流空手道の誠武会（金坂喜治総師、今井良臣師範）の練習に参加していた関係から、玄制流とは異なる和道流の誠武会が医学部空手道部の指導をしてくださることになった。医学部道場には、戸村要之助師範、遠藤正行師範、高宮喜一師範が来られて実際の指導にあたった。戸村師範は武道の道を説きながら主に和道流空手の考え方と形を部員に教えてくださり、遠藤師範と高宮師範からはエネルギッシュな実践的な組み手を指導された。三人の師範のご指導により空手道部員は、空手道の歴史と奥深さを知るとともに、相手との実践的な駆け引きの面白さを経験することができた。これらはその後空手道部員が医師として医療・社会活動する上でこの上ない人生経験になったことは想像に難くない。さらに誠武会のご好意により千葉大学医学部の空手道部においても和道流空手道の昇級、昇段試験の実施が可能となった。これより部員一同は、昇段の大きな目標を掲げて空



1993年東日本医科学生体育大会(東医体)優勝時の写真

第5章 交友の広がり

手道のなお一層の鍛錬に励んだ。

昭和63年からは和道流誠武会の師範が仲介され、藤田幸雄先生（千葉大学教育学部助教授：現教授）が初めて医学部空手道部の合宿へ指導に来られた。藤田先生の指導はいわゆる型どおりの空手ではなく、体育学的な見地から科学的理論に裏付けられたものであった。その指導の実際はリズムカルなアップに始まり、ストレッチ、またさらにリズムを使ったステップ練習、組み手と音楽をかけ続けての止まるところのほとんどない新しい練習方法だった。部員は今までと違う空手の練習に戸惑うことしきりであったが、実際の空手道大会はポイント制によるスポーツ空手であったから、このような練習法も勝利を得るためには重要な手段であり、国体の空手道部門で優秀な成績を上げられた藤田先生の指導法は大変説得力があった。

最近の活動

当初、空手道部の活動は男子部員が中心だったが、その後亥鼻キャンパス内に併設されている看護学校生や看護学部生も徐々に参加するようになった。女子であっても空手の魅力は男子と同じであり、その数も年毎に増えて女子部もついに誕生し、部活動もにぎやかさを増していった。関東医歯薬リーグ、東日本医科大学体育大会（以下、東医体）等の対外活動にも参加するようになり、女子の競技部も設けられたことも相まって自らの腕試しと愛校心から部活動は大変な盛り上がりを見せた。

具体的な戦績としては、空手道部の活動再開後には東医体個人戦で渡辺（昭和54卒）が優勝、長島通（昭和55卒）が準優勝の戦績をあげることができ、大いに士気が上がった。その後も個人戦や団体戦で戦績を重ね、特に近年では平成5年には千葉大学主管により東医体が開催され、空手は政木主将（平成8卒）の下で西千葉の千葉大学体育館で大会が行わ

れた。そして史上初めて千葉大学医学部空手道部が見事に東医体団体戦初優勝を遂げることができた。その後も多くの優秀な成績を積み重ね現在に至っている。

さて、空手道部の部長は、昭和51年から本田良行教授（第2生理学）が長く務められ、平成4年より木内政寛教授（法医学）、平成14年より河野陽一（小児病態学）に引き継がれている。空手道部員にとっても、実際に道場で空手道の鍛錬を経験された先生が本学の教官となられ、部長の大任を務められていることには誠に心強いと言える。

現在空手道部が指導を受けている和道流空手術は、大塚博紀先生を創始者とする伝統空手道である。初代大塚博紀先生は、明治25年茨城県下館市に生まれ、6歳の頃より旧土浦藩武術師範江橋長次郎の指導を受け、明治38年神道揚心流柔術第3世中山辰三郎師範の門下となり、大正9年に29歳で同流免許皆伝、神道揚心流柔術第4世を継がれた。その神道揚心流柔術に空手そして剣術の理合を根本から見直し、その技術体系にそれら武術の理を取り入れ再構築して創設されたのが現在の和道流空手道連盟（<http://www.wado-ryu.jp/wado/wado.htm>）である。和道流空手道連盟の総本部は東京都練馬区にあるが、千葉大医学部空手道部は千葉県東金市にある和道流誠武会の指導を受けて日々精進している。

このように千葉大学医学部空手道部には、多くの先生方のご指導のもとに築いてきた長年の伝統と歴史がある。現在部員は10名を数え日々精進を重ねており、戦績にも目を見張るものがある。また、千葉大学医学部OBにも100名を優に越える空手道部員がいて横のつながりも密に日々の診療活動を行っている。

稿を終えるにあたり医学部空手道部に関わられた皆様方のご指導・ご協力に心より感謝申し上げます。

（この よういち）